一気に過熱 独眼竜人気

仙台・青葉まつり

雨雲吹き飛ばす

渡辺・政宗と桜田・愛（めぐ）姫コンビで、祭りは一気に盛り上がった！。二十四日の仙台・青葉まつりは小雨交じりの肌寒い天候にもかかわらず、七夕並みのにぎわいをみせた。市内中心部は、観客で埋め尽くされ、「独眼竜政宗」人気を裏付けた格好となった。

（1・19面に関連記事）

石井市長を先頭に裃姿で六十二万石御城下パレードをする仙台市役所幹部＝一番町

渡辺政宗 愛姫淳子コンビに観客殺到

混乱恐れ姿消す

目玉のパレード

今年の仙台・青葉まつりの目玉は何といっても、テレビで人気の渡辺謙と桜田淳子。パレード開始に先立ち、午後一時二十分からJR仙台駅二階コンコースで出陣式が行われたが、二人が姿を現すとキャー＝ワーと歓声が上がり、大変な騒ぎ。

パレードが始まると、ファンが隙列めがけて殺到し、警備の警察官も手の施しようがなかった。「身の危険を感じた」（渡辺謙）ほどで、混乱を避けるため二人のパレード参加は途中で中止された。

パレード終了後の記者会見で二人は、市民のあまりの熱狂ぶりに驚きを隠せず「最後までパレードに参加し、皆さんと親しく接したかったのですが…」と残念そう。「これから半年間、これまで以上に頑張らなければ、と思います」と決意を新たにしていた。

パレード出陣式で花束を掲げ観客にこたえる渡辺、桜田の二人、左は脚本家のジェームス三木さん＝仙台駅

沿道の市民がっくり

主催者の措置に不満も

仙台・青葉まつりの目玉だった渡辺謙、桜田淳子のパレード参加は、観客のフィーバーぶりからスタート直後で中止された。このため、二人を見ることができなかった市民の間から「約束が違う」、「説明してくれてもよかったのに」などと不満の声が聞かれた。

NHK「独眼竜政宗」に出演中の人気の二人は、パレード第一集団「六十二万石御城下パレード」に参加、名掛丁入り口から中央通、東一番丁通を通って仙台市役所までの約一・四㌔を歩くことにしていた。ところが、午後二時のスタートと同時に観客が二人をめがけて殺到、パレードが前に進めなくなった。主催者の仙台・青葉まつり協賛会では混雑でけが人が出る恐れもあったことから、約二百㍍歩いた所で二人をパレードから外した。

東一番丁通や定禅寺通などには、二人を見ようと大勢の市民が詰め掛けていた。が、パレードが大幅に遅れた上、いくらたっても二人の姿は見えず、肌寒い中で待たされた人たちはブー、ブー。

「二人がパレードに参加するのを中止したなど、途中経過が分からなかった。大勢の人が長い時間待っていたのだから、説明がほしかった」などと、主催者側の不手際を指摘する観客も多かった。

協賛会実行委員会では、渡辺、桜田コンビを午後四時過ぎ、市役所バルコニーからあいさつさせるという窮余の策を取るのが精いっぱいで、来年以降の祭りに大きな課題を残した。菅原哉左衛門委員長は「渡辺さん、桜田さんの人気がこれほどとは。われわれも驚いている。人出が予想をはるかに超えたため、不手際があった。反省すべき点が多く、来年以降について検討していきたい」と話している。

七夕並みの混雑

仙台中央署の調べによると、この日の人出は約四十万人。パレードのコースとなった中央通や東一番丁通など繁華街は人、人、人で身動きもできないほど。前回までの人出を大幅に上回り、仙台七夕まつり並みのにぎわいをみせた。

この人出に二百人の警察官を動員した仙台中央署は、てんてこ舞い。「押さないで！」、「もっと下がって」と汗だくの警備だったが、「いやあ、驚きました。こんなに大勢の人が集まるとは思わなかった」と公平署長。それでも、大きな混乱もなくパレードが終了し、ホッとした表情だった。

政宗公しのび

瑞鳳殿で法要

仙台藩祖伊達政宗の命日にあたる二十四日、仙台市霊屋下の瑞鳳殿（びょう）瑞鳳殿で、政宗の三百五十二年遠年忌法要が営まれた。

法要には、伊達泰宗・伊達家十八代当主はじめ伊達家ゆかりの人々百人以上が参列。NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」の政宗役・渡辺謙、愛姫役・桜田淳子の二人も昨年に続き参列、厳粛な中にも華やかな雰囲気を漂わせた。

裃（かみしも）姿の一行は表参道をゆっくりと行列。瑞鳳殿本殿前では、瑞巌寺など政宗ゆかりの七寺院の住職らの読経の中を、開帳された政宗像に向かい参列者が焼香、仙台の礎を築いた政宗の遺徳をしのんだ。

青葉神社の神輿

復活に大感激

地元・通町

久しぶりに練り歩く神輿に手を合わせる人の姿も見られた＝仙台市通町

青葉神社の神輿（みこし）渡御は午後一時半、総勢三百八十三人で同神社前を出発、通町を北四番丁通交差点まで南下した。この後、車で運ばれて一番丁通のパレードに加わったが、神輿が地元の町内を練り歩くのは久しぶりとあって、大勢の人が沿道に詰め掛けた。

約四百㍍の重さの神輿が静かに通り過ぎると沿道からはさい銭が投げ入れられた。両手を合わせて祈るお年寄りの姿も見られ、地元の人たちは神輿渡御の復活に大喜びだった。

河北新報　昭和62年(1987年)5月25日掲載